

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
点字 Braille		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
久保 由佳	福祉棟2F	月・火・水・木・金 (授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
視覚障害のある人の基本的な文字である点字についての知識や技能を習得し、視覚障害のある人とのコミュニケーション全般（盲ろう者の指点字を含む）について知識を深める。さらに、点字を通して誘導（手引き）等、視覚障害のある人の生活を支援する技術も学習する。				
授業の到達目標				
①点字の読み書きを習得できるようにする。 ②コミュニケーション手段の一つである点字を通して、視覚障害のある人（重複障害のある人を含む）に対する理解が深められるようにする。 ③点字での表記方法を学び、視覚障害のある人のＱＯＬ向上に寄与できるようにする。				
授業の方法				
主に点字器を使用して実技指導形式で授業を行う。例題や練習問題を活用し、習得状況によっては個別指導も取り入れる。また、墨字（普通文字）でノートを多くとる。				
学習の成果				
①点字の読み書き、最低でも手紙の読み書きができる。 ②基本となる点字の規則を理解し、文章を分かち書きして点訳することができる。 ③視覚障害のある人の情報障害そのものを日常的場面で捉え、その解決法を考え出すことができる。 ④視覚障害のある人（重複障害のある人を含む）とのコミュニケーション方法を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業のねらいと進め方・成績評価の方法など）、点字器の貸出し・借用書の記入 標準点字盤の使い方、点筆の持ち方			
第2回目	点字の歴史と理論（点字の考案・構成）、五十音の学習（あ行～な行）			
第3回目	五十音の学習（は行～わ行） ＊レポート①：五十音を点字表記する。提出期限は授業で指示する。			
第4回目	濁音・半濁音の学習、長音・促音の学習と簡単な分かち書きの仕方			
第5回目	拗音・拗濁音・拗半濁音の学習、行替え・行移しの仕方と短文うち			
第6回目	数字の学習と短文うち			

第7回目	囲み記号（カッコ類）の学習と文章の読み書き ＊レポート②：課題文（障害の理解に関する文章）を点訳する。提出期限は授業で指示する。	
第8回目	各種記号および符号の学習とそれを含む短文の読み書き	
第9回目	これまでのまとめと中間試験	
第10回目	見出しの書き方、点字文法（分かち書き）の学習と文章の点訳	
第11回目	特殊音の学習と短文うち ＊レポート③：課題文（誘導歩行に関する文章）を点訳する。提出期限は授業で指示する。	
第12回目	手紙の書き方	
第13回目	アルファベットの学習と短文うち、点訳の実際（凹面読み・凸面読み）	
第14回目	授業のまとめと学期末試験	
第15回目	視覚障害のある人に対するコミュニケーション福祉用具の知識 （点字タイプライター・コンピューター点訳など） 日常生活に役立つ福祉用具（バリアフリー製品とユニバーサルデザイン製品）、点字器の返却	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	以下の事柄で評価する。①授業に集中し、必要なことをノートにとっている。②練習問題に積極的に取り組んでいる。③授業の内容を復習し、繰り返し練習に励んでいる。
レポート	30%	課題文を点訳するレポートを課す。学習した点字が正しく書けていること、点字がきれいで読みやすいこと、点字の規則を理解して適切な箇所では分かち書きを行っていることを基準に評価する。
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験	40%	中間試験（20％）、学期末試験（20％）で評価する。いずれも提示した文章を分かち書きして点訳する形式とする。また、学籍番号・氏名を点字で書き、正しく表記できていることも評価に含める。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
必要に応じて資料を配布する。		
履修上の心得・ルール		
毎授業の積み重ねとなるため、各自がしっかり復習し、繰り返し練習すること。 指導上、机の並べ替えをする場合があるため、その際は指示に従うこと。 点字器を保有していない学生は携帯用点字器と点字用紙を購入することになるため、1,500円程度を準備しておくこと。購入についての詳細は授業内で説明する。		